

独ダイムラー、1.7 億ドルでシラ・ ナノテクノロジーズの出資元を主導

ジェフ・ イメルト氏を取締役に迎え、次世代電池素材の工業化へ

カリフォルニア州アラメダ市一次世代電池素材を手がけるシラ・ ナノテクノロジーズ (以下「シラ」)は 16 日、独ダイムラー等からの 1 億 7 千万ドル(約 190 億円)のシリーズ E 資金調達を発表した。シラの技術が市場に進出することで電気自動車のパワーアップと低コスト化に近づくことが見通される。このラウンドによりシラの総合資金調達額は 2 億 9 千 5 百万ドル(約 300 億円)に達した。またゼネラル・ エレクトリック(GE)元最高経営責任者(CEO)のジェフ・ イメルト氏を社外取締役として迎えることとなり、イメルト氏の材料・ 製造に関するグローバルなノウハウがシラの成長に貢献すると期待される。

同時に新たな資金元として 8VC が新たな資金元として、すでにシラに出資しているベッセマー・ ベンチャーパートナーズ、チエンウェイ・ キャピタル、マトリックス・ パートナーズ、ネックス 47、サッターヒル・ ベンチャーズに加わった。ダイムラーの取締役で連帯及びイノベーションマネジメントを担うアレックス・ ネディガー氏もシラの取締役に加わる。

電池技術イノベーションを主導するシラは 2011 年に創立され、リチウムイオン電池の負極(アノード)素材を既存の炭素系素材からケイ素系素材に置き換える新たな技術をパイオニアしている。リチウムイオン電池における化学の進歩は年々 1~2 パーセント程度と乏しいため、電気製品や電気自動車等の消費者向け商品の発展開発を妨げる要因となっている。シラの画期的な化学技術は既存のリチウムイオン電池の性能を すでに 20 パーセント高まり、40 パーセントまで向上する可能性がある。

シラの共同創業者及び最高経営責任者(CEO)のジーン・ ベルディチエフスキー氏はこう語る。

「私達は電池性能を高めるために 3 万 5 千回もの試行錯誤を 8 年間かさねた結果、ようやくケイ素系素材を使った技術を攻略しました。」

「シラの技術を消費者向けの電気製品や電気自動車に搭載するステージに入り、市場参入の準備が整った今、ダイムラーなどとのパートナーシップやイメルト氏のノウハウが重要な役割を果たすでしょう。」

イメルト氏を取締役に迎えることでシラは世界規模で様々な業界のエネルギーニーズに応えていく方針だ。イメルト氏の最高経営責任者としての豊富な経験やグローバルなネットワークが今後のシラのイノベーションに貢献することが期待される。

「リチウムイオン電池の発展はますます行き詰まりに面しています。これは電池性能向上化への戦いです。」イメルト氏は言う。

「私はこの目で電池性能向上の可能性の妨げとなっている課題がいかにかに難しいものなのかを見てきています。シラのチームは化学的な難関の突破に成功しただけでなく、その解決策を採算可能な形にしたのです。」

シラは世界の電気製品と自動車業界を念頭に、グローバルに適応可能で実用的なデザインの素材を手がけてきた。流通量が多い物質で製造することで供給の安定を実現している。そして既存のリチウムイオン電池工場で実践可能な技術を実現することで、よりシラ技術製品を送り込みやすくしている。

今回のラウンドによる資金獲得でシラは生産を拡大し、一年以内に消費者向け電機メーカーに供給する予定だ。今後数年でますます生産をスケールアップし、独 BMW やダイムラーとのパートナーシップを踏台に自動車市場へのさらなる参入を目指す。

シラ・ ナノテクノロジーズ

シラは次世代電池のスタンダードとなる最先端の化学技術で安全性に優れた、計量で高いエネルギー密度の電池を可能にする電池素材を開発している。高性能・高寿命な電池が求められる携帯電子機器、電気自動車、再生可能のエネルギーなど、幅広い業界への参入を目指している。シリコンバレーのエンジニアとジョージア工業大学教授によって 2011 年に創立されたシラは、カリフォルニア州のアラメダ郡に本社を構える。8VC、アンプレックステクノロジー(ATL)、ベッセマー・ベンチャーパートナーズ、チエンウェイ・キャピタル、ダイムラー、インキューテル、マトリックス・パートナーズ、ネックス47、サムスン、サッターヒル・ベンチャーズが出資している。詳しくは www.silanano.com へ。